石川県立中央病院　クリニカルインディケーター　目次

1　消化器外科

手術症例における腹腔鏡・胸腔鏡手術施行率（上部消化管グループ）..... 1

手術症例における腹腔鏡手術施行率（下部消化管グループ）..... 2

手術症例における腹腔鏡手術施行率（肝胆膵グループ）..... 3

術式別手術部位感染（Surgical Site Infection：以下ＳＳＩ）発生率..... 4

手術手技別標準化感染比（Standardized Infection Ratio：以下ＳＩＲ）..... 4

胃がん患者に対する手術時の腹水細胞診の施行率..... 6

2　乳腺外科

乳がん患者に対する嘔吐リスクの高い化学療法における制吐剤（５－ＨＴ３受容体拮抗型制吐剤とステロイドの併用）の投与率..... 7

乳がん患者におけるホルモン受容体あるいは、ＨＥＲ２検索の実施率..... 8

浸潤性乳がん（ステージⅠ）の患者に対するセンチネルリンパ節生検の施行率..... 9

乳がん（ステージⅠ）の患者に対する乳房温存手術の施行率..... １０

乳房全摘術における一期的乳房再建施行率..... １１

3　呼吸器外科

肺癌に対する完全胸腔鏡下手術率..... １２

4　整形外科

人工膝関節置換術患者の早期リハビリテーション開始率..... １３

人工股関節置換術／人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の術後３日以内の中止率..... １４

5　脳神経外科

脳卒中患者全体における地域連携パス利用患者数の比率..... １５

6　心臓血管外科

解離性大動脈瘤 Stanford A 型急性期の生存退院率..... １６

7　小児外科

全身麻酔による手術件数..... １７

新生児期での手術件数（全身麻酔）..... １８

鏡視下手術導入率（胸腔鏡・腹腔鏡）..... １９

クリニカルパス導入率..... ２０

8　泌尿器科

体外衝撃波尿路結石破砕術（ESWL）の外来での施行率..... ２１

前立腺肥大症に対する手術のうちホルミウムレーザーを用いた手術の施行率..... ２２

前立腺生検実施後の感染症の発生率..... ２３

9　産婦人科

子宮頸部上皮内癌患者における円錐切除術の施行率..... ２４

良性卵巣腫瘍患者における腹腔鏡下手術の施行率..... ２５

単純子宮全摘術を施行した子宮筋腫患者での輸血実施率..... ２６

10　形成外科

ゲル充填人工乳房を用いて乳房再建術を施行した例数 ２７
組織拡張術器による乳房再建手術を施行した例数 ２８
眼瞼下垂症に対して手術を施行した例数 ２９
11 耳鼻咽喉科
全身麻酔下で鼻副鼻腔手術が施行された患者に対する術前ＣＴ画像検査の施行率 ３０
12 歯科口腔外科
埋伏歯抜歯術に伴うドライソケットの発生率 ３１
難抜歯抜歯術に伴うドライソケットの発生率 ３２
臼歯抜歯術に伴うドライソケットの発生率 ３３
13 総合診療科
総合診療科受診患者の最終診断病名 ３４
14 消化器内科
胃内視鏡的粘膜下層剥離術の一括切除率 ３６
食道内視鏡的粘膜下層剥離術の一括切除率 ３７
大腸内視鏡的粘膜下層剥離術の一括切除率 ３８
15 糖尿病・内分泌内科
糖尿病患者の栄養指導実施数 ３９
フットケア外来受診者数 ４０
16 呼吸器内科
市中肺炎入院患者における迅速検査の実施率 ４１
間質性肺炎患者における血清マーカー検査の実施率 ４２
気管支喘息患者に対する吸入ステロイド剤の投与率 ４３
ＥＧＦＲ－ＴＫＩを投与した患者でのＥＧＰＲ遺伝子検査の施行率 ４４
小細胞肺がんに対する化学療法施行率 ４５
17 循環器内科
急性心筋梗塞症例において来院後 90 分以内に再灌流が得られた症例の割合 ４６
再灌流に成功した急性心筋梗塞患者の院内死亡率 ４７
急性冠症候群における再灌流成功率 ４８
18 神経内科
脳梗塞（急性期）例でのＴＰＡ施行率 ４９
19 腎臓内科
急性血液浄化施行比率 ５０
生物学的製剤の使用率 ５１
紹介透析患者の割合 ５２
20 小児内科
川崎病入院患者の高リスク群の割合 ５３
川崎病入院患者の退院時の冠動脈拡大の割合（エコーでの評価） ５４
市中肺炎入院例での血液培養施行率 ５５

市中肺炎入院例での血液培養陽性率 ５６
21 新生児科
入院患者における極低出生体重児（超極低出生体重児を含む）の割合 ５７
人工呼吸管理を必要とした症例の割合 ５８
新生児搬送で入院した児の割合 ５９
22 血液内科
同種造血幹細胞移植症例数 ６０
自己造血幹細胞移植症例数 ６１
23 化学療法内科
院内化学療法件数における外来化学療法の割合 ６２
24 免疫感染症科
ＨＩＶ患者の外来継続受診率 ６３
ＨＩＶ患者の抗ウイルス薬（ＡＲＴ）導入率 ６４
ＨＩＶ患者における血糖、総コレステロール（またはＬＤＬ）、中性脂肪の３検査の施行率 ６５
25 皮膚科
尋常性乾癬患者数（延べ）とその占有率 ６６
円形脱毛症患者数（延べ）とその占有率 ６７
病理組織検査を実施した患者の初診患者に占める割合 ６８
26 眼科
硝子体手術件数 ６９
白内障手術における術後眼内炎の発症頻度 ７０
27 緩和ケア内科
緩和ケアチームが介入する終末期がん患者に対するリハビリテーション施行率 ７１
緩和ケアチームが介入するがん患者に対する緩和食提供率 ７２
28 救急科
救急外来ウォークイン患者入院率 ７３
救急搬送患者入院率 ７４
29 麻酔科
年間の全手術件数における麻酔科管理の割合 ７５
30 放射線診断科
他院で撮影され持参したＣＴ、ＭＲＩに対する放射線診断科での読影の割合 ７６
ＣＴ、ＭＲＩ検査の読影が翌診療日までに完成している割合 ７７
31 核医学科
甲状腺機能亢進症のＩ－１３１内用療法における早期有害事象の発生率 ７８
32 病理診断科
（消化器内視鏡）生検結果報告までの平均日数 ７９
（消化器内視鏡）生検後３日以内の結果報告率 ８０
33 薬剤部

薬剤管理指導実施率 ８１
ジェネリック医薬品採用率 ８３
院外処方せん発行率 ８５
34 看護部
重症度、医療・看護必要度 ８７
手指衛生遵守率 ８８
中心静脈ライン関連血流感染（ＣＬＡＢＳＩ）発生率 ８９
人工呼吸器関連肺炎（ＶＡＰ）発生率 ９０
転倒・転落発生率（単位：‰） ９１
転倒・転落による損傷発生率（単位：‰） ９２
新生児母乳栄養率 ９３
35 医療技術部放射線室
造影ＣＴ検査の施行率 ９４
造影ＭＲＩ検査の施行率 ９５
強度変調放射線治療(IMRT)・定位照射の施行率 ９６
36 医療技術部検査室
血液培養検査での複数セット採取率 ９７
37 輸血
赤血球濃厚液（ＲＢＣ）廃棄率 ９８
新鮮凍結血漿(ＦＦＰ)／赤血球濃厚液(ＲＢＣ)比 ９９
アルブミン／赤血球濃厚液（ＲＢＣ）比 １００
38 リハビリテーション室
脳血管疾患リハビリテーション料を算定した割合 １０１
運動器リハビリテーション料を算定した割合 １０２
呼吸器リハビリテーション料を算定した割合 １０３
心大血管リハビリテーション料を算定した割合 １０４
廃用症候群リハビリテーション料を算定した割合 １０５
がん患者リハビリテーション料を算定した割合 １０６
39 栄養部
栄養管理計画書作成率 １０７
栄養食事指導実施率（入院） １０９

1 消化器外科

●項目名

手術症例における腹腔鏡・胸腔鏡手術施行率
（上部消化管グループ）

分子　分母のうち腹腔鏡・胸腔鏡手術数

分母　上部消化管症例の手術室での手術数

●解説

手術侵襲が少なく、入院日数の短縮化がはかれる鏡視下手術を推進しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	100	101	102	137	118
分母	148	138	126	160	148
結果	67.6%	73.2%	81.0%	85.6%	79.7%

●項目名

手術症例における腹腔鏡手術施行率
（下部消化管グループ）

分子　分母のうち腹腔鏡手術数

分母　下部消化管症例の手術室での手術数

●解説

手術侵襲が少なく、入院日数の短縮化がはかれる鏡視下手術を推進しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	191	198	182	210	267
分母	227	218	244	227	279
結果	84.1%	90.8%	74.6%	92.5%	95.7%

●項目名

手術症例における腹腔鏡手術施行率
（肝胆膵グループ）

分子　分母のうち腹腔鏡手術数

分母　肝胆膵症例の手術室での手術数

●解説

手術侵襲が少なく、入院日数の短縮化がはかれる鏡視下手術を推進しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	98	115	121	114	115
分母	143	144	165	140	142
結果	68.5%	79.9%	73.3%	81.4%	81.0%

●項目名

術式別手術部位感染（Surgical Site Infection：以下ＳＳＩ）発生率

分子　各術式におけるＳＳＩ発生数

分母　当該手術施行症例数

手術手技別標準化感染比（Standardized Infection Ratio：以下ＳＩＲ）

分子　各リスクインデックスの実測値の合計

分母　各リスクインデックスの期待値計

●解説

SSI 期待値は、各 RI（Risk Index）の手術件数にベンチマーク（比較対象となるデータのこと）となる JANIS（Japan Nosocomial Infections Surveillance）の感染率を掛けたもので、SIR が 1 より大きい場合はベンチマークよりも感染率が高いことを示します。

●結果

術式名	SSI 発生数	症例数	感染率	ＳＩＲ
虫垂手術	3	66	4.55	1.05
肝胆膵合計	6	66	9.09	0.53
肝切除(胆道再建なし)	2	29	6.90	0.42
その他の肝胆膵手術	1	24	4.17	0.27
膵頭十二指腸切除	3	13	23.08	1.04
胆嚢手術	4	88	4.55	1.71
大腸手術	19	134	14.18	1.13
食道手術	4	18	22.22	1.37
胃手術合計	7	151	4.64	0.72
胃全摘	2	31	6.45	0.82
幽門側切除	2	78	2.56	0.45
胃その他	3	42	7.14	1.06
ヘルニア手術	0	35	0	0
直腸手術	23	104	22.12	1.48
小腸手術	4	56	7.14	0.43
腹部手術	1	38	2.63	0.24
乳腺手術	1	209	0.48	0.40

●項目名

胃がん患者に対する手術時の腹水細胞診の施行率

分子　分母のうち腹水細胞診を施行した数

分母　胃がん手術数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	53	39	97	82	56
分母	89	103	118	130	131
結果	59.6%	37.9%	82.2%	63.1%	42.7%

2 乳腺外科

●項目名

乳がん患者に対する嘔吐リスクの高い化学療法における制吐剤（５－ＨＴ３受容体拮抗型制吐剤とステロイドの併用）の投与率

分子　分母のうち制吐剤が使用された患者数

分母　当科でＦＥＣ療法が施行された患者数

●解説

ＦＥＣ療法とは、エピルビシン、エンドキサン、５ＦＵの３剤を併用して行う抗がん剤治療です。副作用として強い吐き気を引き起こすことが多く、制吐剤を適切に使用することが必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	20	19	34	39	42
分母	20	19	34	39	42
結果	100.0	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●項目名

乳がん患者におけるホルモン受容体あるいは、ＨＥＲ２検索の実施率

分子　分母のうちホルモン受容体もしくはＨＥＲ２の検索を行った患者数

分母　当科で新規に乳がん治療を行った患者数

●解説

乳がんの治療を選択するにあたり、ホルモン受容体およびＨＥＲ２の評価は必要不可欠で、可能な限りこれらの因子を検索する必要があります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	147	172	207	221	226
分母	147	172	207	221	226
結果	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●項目名

浸潤性乳がん（ステージⅠ）の患者に対するセンチネルリンパ節生検の施行率

分子　分母のうちセンチネルリンパ節生検を行った患者数

分母　手術時のステージがⅠであった患者数

●解説

臨床的に腋窩リンパ節転移陰性（とりわけ Stage 1）の症例については、センチネルリンパ節生検を行うことが強く推奨されています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	50	52	85	100	109
分母	53	57	88	105	113
結果	94.3%	91.2%	96.6%	95.2%	96.5%

●項目名

乳がん（ステージⅠ）の患者に対する乳房温存手術の施行率

分子　分母のうち乳房温存手術を行った患者数

分母　手術時のステージがⅠであった患者数

●解説

以前は乳房温存率が高いほど優秀であるとの風潮がありましたが、無理な乳房温存手術は再発率を増加させ、術後の整容性も良好でないことが多く、近年では全国的に乳房温存手術の割合が低下する傾向にあります。当院でも同様に乳房温存率は低下してきており、その分、乳房全摘＋乳房再建を行うことが増えてきています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	44	35	45	71	87
分母	53	57	88	105	113
結果	83.0%	61.4%	51.1%	67.6%	77.0%

●項目名

乳房全摘術における一期的乳房再建施行率

分子　一期的乳房再建を行った患者数

分母　乳房全摘を行った患者数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	—	—	—	28	34
分母	—	—	—	88	85
結果	—	—	—	31.8%	40.0%

3 呼吸器外科

●項目名

肺癌に対する完全胸腔鏡下手術率

分子　完全胸腔鏡下で施行した肺癌手術数

分母　肺癌手術数

●解説

肺癌に対する低侵襲手術として胸腔鏡下手術が術後回復や合併症が少ないことがわかっています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	137	135	155	150	144
分母	165	168	175	176	165
結果	83.0%	80.4%	88.6%	85.2%	87.3%

4 整形外科

●項目名

人工膝関節置換術患者の早期リハビリテーション開始率

分子　手術翌日よりリハビリテーションを行った患者数

分母　人工膝関節置換術施行患者数

●解説

全例で、手術翌日よりリハビリテーションを開始しています。

● 結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	29	24	39	42	29
分母	29	24	39	42	29
結果	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

●項目名

人工股関節置換術／人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の術後３日以内の中止率

分子　術中及び術後抗菌剤投与の３日以内の中止患者数

分母　人工股関節置換術／人工骨頭挿入術施行患者数

●解説

原則的に全例で、術後３日以内（ほぼ２日）で中止しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	69	67	82	44	45
分母	69	67	83	44	45
結果	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	100.0%

5 脳神経外科

●項目名

脳卒中患者全体における地域連携パス利用患者数の比率

分子　地域連携パス利用患者数

分母　脳卒中で入院した患者数

●解説

脳卒中地域連携パス利用の目的は、急性期病院から回復期病院を経て在宅まで継続的な脳卒中医療を提供することです。利用率は、地域で脳卒中の患者さんに良質な医療を提供する指標となります。当院は利用率の向上を目指しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	81	91	104	94	57
分母	326	322	325	326	320
結果	24.8%	28.3%	32.0%	28.8%	17.8%

6 心臓血管外科

●項目名

解離性大動脈瘤 Stanford A 型急性期の生存退院率

分子　分母のうち生存退院患者数

分母　解離性大動脈瘤 Stanford A 型急性期の入院患者数

●解説

解離性大動脈瘤A型の初期治療成功症例の割合です。生存中に診断がつき、治療が開始された症例の生存率を示します。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	8	6	10	8	6
分母	12	8	13	11	7
結果	66.7%	75.0%	76.9%	72.7%	85.7%

7 小児外科

●項目名

全身麻酔による手術件数

●解説

小児外科で１年間に全身麻酔下に施行した手術件数です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	475	458	472	500	462

●項目名

新生児期での手術件数（全身麻酔）

●解説

当科で生後 30 日以内の新生児に施行した手術件数です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	22	16	13	16	8

●項目名

鏡視下手術導入率（胸腔鏡・腹腔鏡）

分子　胸腔鏡・腹腔鏡下手術件数

分母　年間手術件数

● 解説

手術侵襲が少なく入院日数の短縮化がはかれる鏡視下手術を推進しています

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	72	124	184	165	135
分母	475	458	472	500	462
結果	15.2%	27.1%	39.0%	33.0%	29.2%

●項目名

クリニカルパス導入率

分子　クリニカルパスを導入した入院患者数

分母　年間入院患者数

●解説

小児外科では化学的根拠に基づいた医療の効率化や安全性の向上につながるクリニカルパスを積極的に導入しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	363	323	331	241	306
分母	526	469	473	358	456
結果	69.0%	68.9%	70.0%	67.3%	67.1%

8 泌尿器科

●項目名

体外衝撃波尿路結石破砕術（ESWL）の外来での施行率

分子　外来ＥＳＷＬ件数

分母　全ＥＳＷＬ件数

●解説

重篤な合併症を有しない尿路結石症患者に外来的に体外衝撃波尿路結石破砕術を施行することは患者にとって益多いことです。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	0	83	79	81	100
分母	106	101	82	97	112
結果	0.0%	82.2%	96.3%	83.5%	89.3%

●項目名

前立腺肥大症に対する手術のうちホルミウムレーザーを用いた手術の施行率

分子　HOLEP ホルミウムレーザーを用いた手術件数

分母　全前立腺肥大症に対する手術件数

●解説

ホルミウムレーザーを用いた前立腺肥大症の内視鏡手術(HOLEP)は技術の修得が必要ですが、大きな前立腺肥大症であっても内視鏡的に出血を抑え、全ての腺腫を摘出できます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	11	25	23	14	7
分母	22	39	39	33	11
結果	50.0%	64.1%	59.0%	42.4%	63.6%

●項目名

前立腺生検実施後の感染症の発生率

分子　生検後に発熱した症例数

分母　前立腺生検症例数

●解説

前立腺生検は経腸的に行うため数%の患者は急性前立腺炎を併発します。予防的に抗菌薬を投与しますが、耐性菌の出現頻度、使用する抗菌薬の種類、生検の手技（消毒法など）によって、その発生率は変動し、時には重篤化します。発生率を抑えるため感受性試験の結果を検討し、予防的抗菌薬を選択する必要があります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	4	6	1	3	1
分母	206	192	174	164	178
結果	1.9%	3.1%	0.6%	1.8%	0.6%

9 産婦人科

●項目名

子宮頸部上皮内癌患者における円錐切除術の施行率

分子 分母のうち円錐切除術が施行された患者数

分母 子宮頸部上皮内癌（初発）の退院患者数

●解説

今後の治療方針や予後予測に役立てる為に円錐切除術により摘出した組織片より、子宮頸部病変の確定診断を行う事が望ましいです。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	11	9	4	12	3
分母	12	9	7	12	5
結果	91.7%	100.0%	57.1%	100.0%	60.0%

●項目名

良性卵巣腫瘍患者における腹腔鏡下手術の施行率

分子 分母のうち腹腔鏡下手術を施行した患者数

分母 良性卵巣腫瘍患者で手術を受けた患者数

●解説

良性卵巣腫瘍でも腹腔鏡下で手術が可能であれば低侵襲で早期に社会復帰が可能です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	37	65	77	62	140
分母	44	80	85	81	147
結果	84.1%	81.3%	90.6%	75.3%	95.2%

●項目名

単純子宮全摘術を施行した子宮筋腫患者での輸血実施率

分子　分母のうち輸血がなされた患者数

分母　子宮筋腫で単純子宮全摘術が施行された患者数

●解説

子宮筋腫治療で行う単純子宮全摘術では、通常輸血が必要となることはまれです。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	0	0	1	0	0
分母	50	57	82	71	91
結果	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%

10 形成外科

●項目名

ゲル充填人工乳房を用いて乳房再建術を施行した例数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	0	0	29	32	41

●項目名

組織拡張術器による乳房再建手術を施行した例数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	0	3	30	24	34

●項目名

眼瞼下垂症に対して手術を施行した例数

●結果（形成外科分）

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	9	20	16	13	16

11 耳鼻咽喉科

●項目名

全身麻酔下で鼻副鼻腔手術が施行された患者に対する術前ＣＴ画像検査の施行率

分子 分母のうち術前にＣＴ検査を行った患者数

分母 全身麻酔で鼻副鼻腔手術を施行した退院患者数

●解説

鼻副鼻腔の手術においては、そのバリエーションや合併症防止のためにＣＴでの評価が必要とされています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	55	61	58	64	55
分母	56	61	58	64	55
結果	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

12 歯科口腔外科

●項目名

埋伏歯抜歯術に伴うドライソケットの発生率

分子　分母のうち埋伏歯抜歯術に伴うドライソケットが発生した件数

分母　埋伏歯抜歯手術を施行した件数

●解説

埋伏歯抜歯手術は、骨性の完全埋伏歯または歯冠部が３分の２以上の骨性埋伏である水平埋伏智歯を抜歯する手術です。ドライソケットは、抜歯後偶発症の１つです。抜歯窩は血餅で満たされるのが普通ですが、その血餅が分解、消失してしまい、陥凹して乾燥した状態を呈します。歯槽骨は露出し、疼痛を伴います。抜歯窩の洗浄を継続し、疼痛が消失するまで、抗菌薬と鎮痛剤の経口投与が必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	1	1	2	2	2
分母	590	667	694	913	950
結果	0.2%	0.1%	0.3%	0.2%	0.2%

●項目名

難抜歯抜歯術に伴うドライソケットの発生率

分子　分母のうち難抜歯抜歯術に伴うドライソケットが発生した件数

分母　難抜歯抜歯手術を施行した件数

●解説

難抜歯抜歯手術は、歯根肥大、骨の癒着歯、歯根彎曲等に対して骨の開削または歯根分離術等を行って抜歯する手術です。ドライソケットは、抜歯後偶発症の１つです。抜歯窩は血餅で満たされるのが普通ですが、その血餅が分解、消失してしまい、陥凹して乾燥した状態を呈します。歯槽骨は露出し、疼痛を伴います。抜歯窩の洗浄を継続し、疼痛が消失するまで、抗菌薬と鎮痛剤の経口投与が必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	0	0	0	0	1
分母	401	483	508	581	606
結果	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%

●項目名

臼歯抜歯術に伴うドライソケットの発生率

分子　分母のうち臼歯抜歯術に伴う
ドライソケットが発生した件数

分母　臼歯抜歯手術を施行した件数

●解説

臼歯抜歯手術は、前歯に対して、口腔内の後方に位置する歯の抜歯手術をさします。ドライソケットは、抜歯後偶発症の１つです。抜歯窩は血餅で満たされるのが普通ですが、その血餅が分解、消失してしまい、陥凹して乾燥した状態を呈します。歯槽骨は露出し、疼痛を伴います。抜歯窩の洗浄を継続し、疼痛が消失するまで、抗菌薬と鎮痛剤の経口投与が必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	0	0	0	0	2
分母	406	410	467	481	1,075
結果	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%

13 総合診療科

●項目名

総合診療科受診患者の最終診断病名

●解説

最終診断名をICD-10により分類し、各領域毎の割合を示します。呼吸器、消化器、更に検診などでの検査異常値の精査に続き、最近は内分泌・代謝疾患領域の受診患者数が増加しています。

●結果

ICD コード	分類見出し	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
A00-B99	感染症	9.8%	7.4%	6.0%	7.0%	6.5%
C00-D48	新生物疾患	2.3%	2.2%	1.8%	2.7%	3.2%
D50-D89	血液疾患	1.1%	1.9%	1.7%	2.1%	1.9%
E00-E90	内分泌・代謝疾患	10.4%	13.3%	18.0%	10.4%	11.5%
F00-F99	精神系の疾患	1.3%	1.0%	1.1%	1.0%	1.3%
G00-G99	神経系の疾患	1.4%	2.3%	2.6%	2.2%	2.3%
H00-H59	眼の疾患	0.1%	0.1%	0.1%	2.5%	2.5%
H60-H95	耳の疾患	0.5%	0.4%	0.4%	1.1%	0.1%
I00-I99	循環器系の疾患	8.0%	9.7%	10.5%	7.1%	7.7%
J00-J99	呼吸器系の疾患	25.2%	21.3%	20.7%	17.3%	17.9%
K00-K93	消化器系の疾患	18.0%	18.3%	12.6%	17.0%	14.7%
00-L99	皮膚の疾患	0.7%	0.7%	1.0%	3.6%	3.3%
M00-M99	筋・骨格疾患	5.9%	6.5%	7.0%	7.0%	6.6%
N00-N99	腎・尿路・生殖系の疾患	2.1%	1.9%	2.1%	4.5%	4.6%
O00-O99	妊娠・分娩および産褥	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.4%
P00-P96	周産期に発生した疾患	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q00-Q99	先天奇形・染色体異常	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%
R00-R99	異常値と所見 他に分類されないもの	12.1%	12.0%	12.9%	10.8%	11.0%
S00-T98	損傷・中毒 その他の外因影響	0.9%	0.8%	1.1%	2.9%	3.3%
V00-Y98	傷病及び死亡の外因	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Z00-Z99	健康への影響	0.1%	0.0%	0.1%	0.5%	0.6%
U00-U99	特殊目的	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

14 消化器内科

●項目名

胃内視鏡的粘膜下層剥離術の一括切除率

分子　分母のうち一括切除された病変数

分母　全切除病変数

●解説

早期胃癌の内視鏡治療においては病理診断が詳細に行える一括切除が求められています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	233	204	189	222	217
分母	235	206	190	224	218
結果	99.1%	99.0%	99.5%	99.1%	99.5%

●項目名

食道内視鏡的粘膜下層剥離術の一括切除率

分子　分母のうち一括切除された病変数

分母　全切除病変数

●解説

表在型食道癌の内視鏡治療においては病理診断が詳細に行える一括切除が求められています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	55	55	42	27	48
分母	55	58	42	27	49
結果	100.0%	94.8%	100.0%	100.0%	98.0%

●項目名

大腸内視鏡的粘膜下層剥離術の一括切除率

分子　分母のうち一括切除された病変数

分母　全切除病変数

●解説

早期大腸癌の内視鏡治療においては病理診断が詳細に行える一括切除が求められています。なお、早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術は通常の内視鏡治療で切除困難と考えられる病変に対してのみ行っています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	36	40	35	31	44
分母	39	42	35	32	47
結果	92.3%	95.2%	100.0%	96.9%	93.6%

15 糖尿病・内分泌内科

●項目名

糖尿病患者の栄養指導実施数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
外来	1,724	1,780	1,860	1,804	1,935
入院	502	491	512	366	309

●項目名

フットケア外来受診者数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	172	162	184	156	121

16 呼吸器内科

●項目名

市中肺炎入院患者における迅速検査の実施率

分子　尿中肺炎球菌抗原実施患者数

分母　肺炎入院患者数

●解説

肺炎入院患者における迅速検査の実施は９０％以上でした。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	123	146	154	172	245
分母	134	160	160	176	247
結果	91.8%	91.3%	96.3%	97.7%	99.2%

●項目名

間質性肺炎患者における血清マーカー検査の実施率

分子　ＫＬ－６検査実施患者数

分母　間質性肺炎入院患者数

●解説

血清マーカー検査は全例に行われています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	42	39	48	46	49
分母	42	39	49	46	49
結果	100.0%	100.0%	98.0%	100.0%	100.0%

●項目名

気管支喘息患者に対する吸入ステロイド剤の投与率

分子　吸入ステロイド剤投与患者数

分母　気管支喘息入院患者数

●解説

高齢で吸入ができない患者以外は吸入ステロイド剤を投与しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	23	36	30	19	51
分母	25	39	32	20	51
結果	92.0%	92.3%	93.8%	95.0%	100.0%

●項目名

ＥＧＦＲ－ＴＫＩを投与した患者でのＥＧＰＲ遺伝子検査の施行率

分子　ＥＧＦＲ－ＴＫＩ投与患者数

分母　ＥＧＦＲ遺伝子陽性肺癌入院患者数

●解説

EGFR 遺伝子変異を有する患者にのみ EGFR-TKI を投与しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	6	9	19	8	10
分母	6	9	19	8	11
結果	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	90.9%

●項目名

小細胞肺がんに対する化学療法施行率

分子　化学療法施行患者数

分母　小細胞肺癌入院患者数

●解説

患者の同意が得られなかったり、合併症のため化学療法が禁忌に近い場合を除いて化学療法を行っています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	15	6	12	19	15
分母	20	7	12	19	15
結果	75.0%	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%

17 循環器内科

●項目名

急性心筋梗塞症例において来院後 90 分以内に再灌流が得られた症例の割合

分子　来院後９０分以内に再灌流が得られた症例数

分母　急性心筋梗塞症例数

●解説

急性心筋梗塞例の救命には、出来るだけ早く閉塞した冠動脈を再灌流させる必要があります。来院から再灌流までの時間(Door to BaloonTime)は 90 分以内が救命に重要とされており、この時間内での再灌流率は、救急システム、心臓カテーテル技術など、心臓救急体制を評価する重要な指標と考えられます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	25	30	24	32	41
分母	45	65	63	58	69
結果	55.6%	46.2%	38.1%	55.2%	59.4%

●項目名

再灌流に成功した急性心筋梗塞患者の院内死亡率

分子　院内死亡症例数

分母　再還流に成功した急性心筋梗塞症例数

●解説

重症の急性心筋梗塞例では、再還流に成功しても救命し得ない症例も存在します。その頻度、内容を再評価することにより、今後の治療改善点を見出せるものと考えます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	2	2	1	6	4
分母	43	62	63	57	69
結果	4.7%	3.2%	1.6%	10.5%	5.8%

●項目名

急性冠症候群における再灌流成功率

分子　再灌流に成功した症例数

分母　急性冠症候群症例数

●解説

急性冠症候群の冠動脈病変は、比較的柔らかい血栓が主体であり、一定の心臓カテーテル技術をもってすれば、比較的容易に再灌流が得られるものと考えられています。しかし中には石灰化も強く、屈曲した複雑な病変も存在し、治療に難渋することもあります。急性冠症候群の病態、アプローチ法を再検討することで、治療技術向上・救命率向上につながるものと考えられます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	52	71	89	71	84
分母	54	74	89	73	85
結果	96.3%	95.9%	100.0%	97.3%	98.8%

18 神経内科

●項目名

脳梗塞（急性期）例でのＴＰＡ施行率

分子　ＴＰＡを施行した症例数

分母　脳梗塞（急性期）を発症した症例数

●解説

脳梗塞患者のうち、中等症以上の重症度で、発症後４.５時間以内にＴＰＡを実施すると、しない場合に比べて症状の改善度が高まります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	4	12	8	13	16
分母	159	161	128	124	145
結果	2.5%	7.5%	6.3%	10.5%	11.0%

19 腎臓内科

●項目名

急性血液浄化施行比率

分子　急性血液浄化施行数

分母　総透析回数

●解説

急性期の透析の割合で、急性期病院の指標となります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	439	234	393	542	353
分母	7,739	7,712	7,419	6,915	6,393
結果	5.7%	3.0%	5.3%	7.8%	5.5%

●項目名

生物学的製剤の使用率

分子　生物学的製剤を使用した患者数（実数）

分母　関節リウマチ病名のある来院患者数（実数）

●解説

リウマチ患者で積極的治療を必要とする割合です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	65	59	80	42	49
分母	435	425	421	511	519
結果	14.9%	13.9%	19.0%	8.2%	9.4%

●項目名

紹介透析患者の割合

分子　逆紹介透析患者数

分母　当科で新規に透析を導入した患者数

●解説

当院の病診連携に関与する透析患者の指標です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	8	10	18	12	15
分母	18	30	22	16	25
結果	44.4%	33.3%	81.8%	75.0%	60.0%

20 小児内科

●項目名

川崎病入院患者の高リスク群の割合

分子　高リスク群数

分母　全川崎病入院数

●解説

冠動脈病変を合併しやすい高リスク群の川崎病は 30%前後で推移しています。

●結果

	２４年度	２５年	２６年	２７年	２８年度
分子	8	13	22	15	12
分母	49	43	64	44	44
結果	16.3%	30.2%	34.4%	34.1%	27.3%

●項目名

川崎病入院患者の退院時の冠動脈拡大の割合（エコーでの評価）

分子　エコーで冠動脈拡大を認めた患者数

分母　全川崎病入院数

●解説

冠動脈病変の合併率は、２７年は、9.1%と増加し、高リスク群に対する治療法を、ガンマグロブリン・アスピリン・シクロスポリンの３剤併用としましたが、２８年の冠動脈病変合併症は２７年と同様でした。

●結果

	２４年	２５年	２６年	２７年	２８年
分子	2	2	2	4	4
分母	49	43	64	44	44
結果	4.1%	4.7%	3.1%	9.1%	9.1%

●項目名

市中肺炎入院例での血液培養施行率

分子　血液培養施行数

分母　市中肺炎入院数

●解説

小児の市中肺炎では、菌血症を合併する率が多く、血液培養が必要とされています。当科での培養実施率は年々低下していましたが、２８年はやや増加しています。

●結果

	２４年	２５年	２６年	２７年	２８年
分子	90	48	34	11	11
分母	142	109	120	104	74
結果	63.4%	44.0%	28.3%	10.6%	14.9%

●項目名

市中肺炎入院例での血液培養陽性率

分子　血液培養陽性数

分母　血液培養を施行した患者数

●解説

前医での内服抗生物質の影響と思われますが、血液培養の陽性率は低いです。２８年は１例で肺炎球菌が検出されています。

●結果

	２４年	２５年	２６年	２７年	２８年
分子	2	2	0	0	1
分母	90	48	34	11	11
結果	2.2%	4.2%	0.0%	0.0%	9.1%

21 新生児科

●項目名

入院患者における極低出生体重児（超極低出生体重児を含む）の割合

分子　分母のうち出生体重 1,500ｇ未満の症例数

分母　全入院件数

●解説

極低出生体重児（出生体重 1500g 未満の新生児）では、気管挿管、人工呼吸管理、観血的血圧測定を含む循環管理、中心静脈栄養などの集中治療を必要とします

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	38	26	48	29	47
分母	184	184	156	170	153
結果	20.7%	14.1%	30.8%	17.1%	30.7%

●項目名

人工呼吸管理を必要とした症例の割合

分子　分母のうち気管挿管を行って人工呼吸管理を要した症例数

分母　全入院件数

●解説

気管挿管を行って人工呼吸管理をした児の割合です。呼吸窮迫症候群(早産児)、胎便吸引症候群、新生児仮死蘇生後などが含まれます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	60	54	63	47	48
分母	184	184	156	170	153
結果	32.6%	29.3%	40.4%	27.6%	31.4%

●項目名

新生児搬送で入院した児の割合

分子　新生児搬送で入院した件数

分母　全入院件数

●解説

県内の産科医療機関より要請のあった場合、専用救急車に医師、看護師が同乗し新生児の搬送を行っています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	56	57	46	39	33
分母	184	184	156	170	153
結果	30.4%	31.0%	29.5%	22.9%	21.6%

22 血液内科

●項目名

同種造血幹細胞移植症例数

●解説

同種骨髄移植、同種末梢血幹細胞移植、同種臍帯血幹細胞移植を合計した症例数です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	19	15	13	10	14

●項目名

自己造血幹細胞移植症例数

●解説

自己末梢血幹細胞移植、自家骨髄移植を合計した症例数です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	8	13	14	8	5

23 化学療法内科

●項目名

院内化学療法件数における外来化学療法の割合

分子　外来化学療法の件数

分母　入院＋外来化学療法の件数

●解説

患者さんのニーズの高まりから、化学療法は外来治療に移行してきています。全治療件数における外来化学療法件数の割合を一定に維持することが必要です（入院例で生物学的製剤を投与した件数は含まれていません）。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	5,072	4,788	4,820	5,467	5,719
分母	8,135	8,274	9,145	10,143	10,082
結果	62.3%	57.9%	52.7%	53.9%	56.7%

24 免疫感染症科

●項目名

ＨＩＶ患者の外来継続受診率

分子　分母のうち、年度内に免疫感染症科を３回以上受診した患者実数

分母　免疫感染症科を１回以上受診した患者の実人数

●解説

HIV の治療には継続的な外来フォローが重要で、患者が継続的に受診し、適切な管理を行っていくことが大切です。患者が継続的に受診できるように、チーム医療を通じて支援することが必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	83	91	101	109	116
分母	86	93	105	114	120
結果	96.5%	97.8%	96.2%	95.6%	96.7%

●項目名

ＨＩＶ患者の抗ウイルス薬（ＡＲＴ）導入率

分子　分母のうち、ＡＲＴを導入した人数

分母　免疫感染症科を１回以上受診した患者の実人数

●解説

ＨＩＶのコントロールには、できるだけ早期にＡＲＴを導入し継続することが必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	82	91	102	110	117
分母	86	93	105	114	120
結果	95.3%	97.8%	97.1%	96.5%	97.5%

●項目名

ＨＩＶ患者における血糖、総コレステロール（またはＬＤＬ）、中性脂肪の３検査の施行率

分子 分母のうち、血糖、総コレステロール(またはＬＤＬ)、中性脂肪の３検査が同時に施行された患者数

分母 免疫感染症科を１回以上受診した患者の実人数

●解説

抗ＨＩＶ療法により、代謝異常等の副作用が起こりやすくなります。このため、定期的に、血糖、総コレステロール、中性脂肪の検査を行い、適切な対応を行なっていくことが必要です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	82	87	99	109	108
分母	86	93	105	114	120
結果	95.3%	93.5%	94.3%	95.6%	90.0%

25 皮膚科

●項目名

尋常性乾癬患者数（延べ）とその占有率

分子　尋常性乾癬患者数（延べ）

分母　外来患者数

●解説

外来患者に占める尋常性乾癬患者の占有率が他施設に比して多いです。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	2,616	2,357	2,607	1,783	1,917
分母	14,238	14,803	14,384	13,452	15,067
結果	18.4%	15.9%	18.1%	13.3%	12.7%

●項目名

円形脱毛症患者数（延べ）とその占有率

分子　円形脱毛症患者数（延べ）

分母　外来患者数

●解説

外来患者に占める円形脱毛症患者数の占有率が他施設に比して多いです。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	1,948	2,199	2,156	2,367	1,924
分母	14,238	14,803	14,384	13,452	15,067
結果	13.7%	14.9%	15.0%	17.6%	12.8%

●項目名

病理組織検査を実施した患者の初診患者に占める割合

分子　病理組織検査を実施した患者数

分母　初診患者数

●解説

難治例、紹介患者に皮膚生検を施行し病名を確定する役割を担っています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	233	251	199	229	212
分母	1,197	1,164	735	780	792
結果	19.5%	21.6%	27.1%	29.4%	26.8%

26 眼科

●項目名

硝子体手術件数

●解説

裂孔原性網膜剥離や糖尿病網膜症などに対して施行される硝子体手術は眼科手術の中では、比較的侵襲も大きく高度な専門技術と設備を要し眼科診療として高度な医療を提供している指標になると考えます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	43	40	89	102	91

●項目名

白内障手術における術後眼内炎の発症頻度

●解説

内眼手術後の術後眼内炎は失明の可能性もある重篤な忌むべき合併症です。既報の報告では、発生率は０．５～０．０５％程度といわれております。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	0	0	0	0	1
分母	350	375	477	502	542
結果	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%

27 緩和ケア内科

●項目名

緩和ケアチームが介入する終末期がん患者に対するリハビリテーション施行率

分子 分母のうち緩和的・維持的リハビリテーションを施行した患者数

分母 緩和ケアチームが介入した新規年間患者数

●解説

緩和ケアの目標はＱＯＬの向上であり、リハビリテーションを行うことは、ＱＯＬの向上または維持に貢献できる手段です。この値が高いほど質の高い緩和ケアが提供されていることになります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	28	27	41	134	151
分母	42	39	57	340	394
結果	66.7%	69.2%	71.9%	39.4%	38.3%

●項目名

緩和ケアチームが介入するがん患者に対する緩和食提供率

分子 分母のうち緩和食を提供している患者数

分母 緩和ケアチームが介入した新規年間患者数

●解説

終末期がん患者は種々の症状で食事摂取が低下しています。きめの細かい緩和ケアを行うためには、食事に対するニーズを把握し、食事の量、見た目、味の濃さ、温度などに配慮する必要があります。この値が高いほど、きめ細やかな質の高い緩和ケアが提供されていることになります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	31	23	44	62	73
分母	42	39	57	340	394
結果	73.8%	59.0%	77.2%	18.2%	18.5%

28 救急科

●項目名

救急外来ウォークイン患者入院率

分子　分母のうち入院となった患者数

分母　救急外来ウォークイン患者総数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	1,658	1,732	1,617	1,631	1,812
分母	19,900	19,183	18,310	17,935	15,736
結果	8.3%	9.0%	8.8%	9.1%	11.5%

●項目名

救急搬送患者入院率

分子　分母のうち入院となった患者数

分母　救急搬送患者総数

結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	1,843	1,860	1,928	1,716	1,945
分母	3,243	3,220	3,432	3,129	3,327
結果	56.8%	57.8%	56.2%	54.8%	58.5%

29 麻酔科

●項目名

年間の全手術件数における麻酔科管理の割合

分子　麻酔科医によって麻酔管理が行われた手術件数

分母　全手術件数

●解説

手術が安全に行われるために麻酔科医による全身管理が求められます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	3,846	4,007	4,264	4,305	4385
分母	4,955	5,211	5,544	5,747	5909
結果	77.6%	76.9%	76.9%	74.9%	74.2%

30 放射線診断科

●項目名

他院で撮影され持参したＣＴ、ＭＲＩに対する放射線診断科での読影の割合

分子　他院で撮影し持参したＣＴ、ＭＲＩの放射線診断科での読影件数

分母　当院での他医療機関ＣＴ、ＭＲＩ診断（コンピュータ診断）の件数

●解説

持参したＣＴやＭＲＩのコンピュータ診断のうち、読影を放射線診断科に依頼した件数を見ることで、当院の専門医による読影に期待する割合を示す指標となります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	319	322	332	566	628
分母	1,511	1,303	1,412	1,775	1,630
結果	21.1%	24.7%	23.5%	31.9%	38.5%

●項目名

ＣＴ、ＭＲＩ検査の読影が翌診療日までに完成している割合

分子 読影が翌診療日までに完成している件数

分母 施行されたＣＴ、ＭＲＩ検査の件数

●解説

「画像診断管理加算２」に必要な割合で、行われた画像検査に対して迅速な報告を行っているかどうかを見る指標となります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	25,887	33,033	34,716	35,699	37,928
分母	25,887	33,033	34,716	35,699	37,928
結果	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

31 核医学科

●項目名

甲状腺機能亢進症のＩ－１３１内用療法における早期有害事象の発生率

分子　分母のうち治療後１週間以内に有害事象を認めた患者数

分母　甲状腺機能亢進症でＩ－１３１内容療法を施行した患者数

●解説

甲状腺機能亢進症に対するI-131内用療法においては、治療後、食欲低下、悪心などの消化器症状や甲状腺機能亢進症状の増悪などの有害事象を認めることがあり、補液、投薬など適切な処置により症状の軽減、緩和を図ることが求められます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	4	1	2	1	3
分母	14	11	14	10	17
結果	28.6%	9.1%	14.3%	10.0%	17.6%

32 病理診断科

●項目名

（消化器内視鏡）生検結果報告までの平均日数

●解説

平成２５年度途中で標本作成までを１日→２日に延長しました。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	2.29 日	2.70 日	2.75 日	2.14 日	2.25 日

●項目名

（消化器内視鏡）生検後３日以内の結果報告率

分子　受付から報告まで３日以内に
報告した消化器内視鏡生検件数

分母　消化器内視鏡生検件数

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	88.6%	85.4%	87.5%	95.8%	93.7%

33 薬剤部

●項目名

薬剤管理指導実施率

分子　薬剤管理指導を実施した患者数（延べ）

分母　退院患者数（延べ）

●解説

服薬指導(薬剤管理指導業務)とは、入院患者の薬歴管理と服薬指導を介して、患者の薬物療法への認識を向上させ、また患者から得られた情報を医師にフィードバックすることにより、薬物療法を支援する業務のことです。

医薬品の適正使用には、患者へのアドヒアランス(患者が積極的に治療方針の決定に従って治療を受けること)の向上が必須となります。入院患者における服薬指導の実施は、薬物療法における安全性確保及び有用性に寄与すると考えらます。

服薬指導実施件数の割合は、患者の薬への理解を深めること及び正しい服薬に有効であり、医薬品の適正使用(安全使用)の指標とも言えます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	2,701	7,851	10,107	10,741	10,710
分母	13,893	13,677	14,156	15,239	14,764
結果	19.4%	57.4%	71.4%	70.5%	72.5%

●項目名

ジェネリック医薬品採用率

分子

調剤したジェネリック医薬品について
薬価基準上の規格単位ごとに数えた数量

分母

調剤したジェネリック医薬品ありの先発品＋
ジェネリック医薬品について薬価基準上の
規格単位ごとに数えた数量

●解説

医療の質を落とさずに国民皆保険制度を今後も持続するためには、低価格のジェネリック医薬品の使用促進等による医療費の効率的活用を図ることが必要です。

ジェネリック医薬品は、有効性や安全性が先発医薬品と同等ですが、開発費用が低く抑えられることから低価格で供給できるので、患者の薬剤費の負担を軽減することができます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	690,791	884,729	2,041,095	1,976,553	2,384,142
分母	1,865,022	1,866,122	2,580,897	2,210,377	2,596,992
結果	37.0%	47.4%	79.1%	89.4%	91.8%

●項目名

院外処方せん発行率

分子　院外処方せん数

分母　外来処方せん総数

●解説

医薬分業とは、医師と薬剤師の役割を分けることで、不適切な薬や過剰な投薬を抑制し、二重チェックをすることで薬物療法が社会と個人に対してより有益になるようにした制度です。

具体的には、患者が受診した病院で直接薬を受け取ることはなく、医師・歯科医師が発行した「院外処方せん」を保険薬局に持っていき、保険薬局の薬剤師が調剤した薬を受け取ります。

病院での待ち時間が短くなり、自宅や勤務先の近くの薬局で薬がもらえます。また、「かかりつけ薬局」を持つことで、患者情報を１ヶ所で把握することができ、複数の医療機関で処方された薬の重複の有無や相互作用のチェックができます。

当院では、原則として院外処方せんを発行しております。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	118,077	114,744	119,588	121,696	134,974
分母	135,441	133,242	139,031	141,396	153,716
結果	87.2%	86.1%	86.0%	86.1%	87.8%

34 看護部

●項目名

重症度、医療・看護必要度

分子　算定条件を満たす患者数

分母　区分の対象となる患者数

●解説

重症度、医療・看護必要度は「入院患者に提供されるべき看護の必要量」であり、それを点数化して重傷者の割合を示したものです。

●結果（一般病棟）

評価基準が平成２８年６月から変更になったため２８年度集計は平成２８年６月から平成２９年３月としています。

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	32,015	34,650	42,549	39,235	38,567
分母	169,019	157,538	159,211	149,687	119,119
結果	18.9%	22.0%	26.7%	26.2%	32.4%

●項目名

手指衛生遵守率

●解説

手指衛生遵守とは、手指衛生が必要な時に適切な方法で実施されることであり、これがどの程度現場で実施されているかを数値で示したものを手指衛生遵守率といいます。日本エア・リキード社が提供している「マイクロシールドコンプライアンスモニター」というインターネットを活用した遵守率記録・分析ツールを利用し、病棟ごとの特性や患者数、患者重症度などを反映させた統一指標としています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
結果	–	58.4%	41.7%	64.5%	70.2%

●項目名

中心静脈ライン関連血流感染（ＣＬＡＢＳＩ）発生率

分子　中心静脈ライン関連血流感染件数

分母　中心静脈ライン挿入患者数（延べ）

●解説

中心徐脈ライン管理が適切に行われているかの指標です。

●結果（単位：1000 デバイスデイズ）

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	－	11	22	21	22
分母	－			21,458	18,931
結果	－	1.1	1.1	1.0	1.2

●項目名

人工呼吸器関連肺炎（ＶＡＰ）発生率

分子　人工呼吸器関連肺炎件数

分母　人工呼吸器装着患者数（延べ）

●解説

人工呼吸器の清潔管理、人工呼吸器装着患者の誤嚥防止ケア等が適切に行われているかの指標です。

●結果（単位：1000 デバイスデイズ）

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	－	4	5	5	4
分母	－		3,489	2,927	2,034
結果	－	0.021	1.433	1.710	2.210

●項目名

転倒・転落発生率（単位：‰）

分子　報告のあった入院中の転倒・転落件数

分母　入院患者数（延べ）

●解説

入院患者全体から転倒・転落の報告がされた比率です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	572	623	541	451	493
分母	192,705	179,170	180,314	170,909	172298
結果	2.96‰	3.47‰	3.00‰	2.63‰	2.86‰

●項目名

転倒・転落による損傷発生率（単位：‰）

分子 報告のあった入院中の転倒・転落件数のうち
レベル３ｂ(濃厚な治療、処置を要した)の報告件数

分母 入院患者数（延べ）

●解説

転倒・転落が原因で損傷（骨折など）を発生した比率です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	3	5	3	5	0
分母	192,705	179,170	180,314	170,909	172,298
結果	0.01‰	0.02‰	0.01‰	0.03‰	0.00‰

●項目名

新生児母乳栄養率

分子　1か月健診時の母乳栄養のみの児の数

分母　新生児数

●解説

母乳育児支援の指標です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	198	169	163	180	164
分母	259	229	207	249	229
結果	76.4%	73.8%	78.7%	72.3%	71.6%

35 医療技術部放射線室

●項目名

造影ＣＴ検査の施行率

分子　造影検査数

分母　処置を除く検査数

●解説

造影検査は、造影剤を静脈内に注射してＣＴを撮影する検査です。血管や病巣がわかりやすくなり、特に腹部検査では病態を理解し、より正確な診断が可能となります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	10,673	10,448	11,053	11,803	12,879
分母	24,801	24,965	26,360	27,657	29,773
結果	43.0%	41.9%	41.9%	42.7%	43.3%

●項目名

造影ＭＲＩ検査の施行率

分子　造影検査数

分母　検査数

●解説

ＭＲＩとは、磁気共鳴画像（Magnetic Resonance Imaging）の略語です。Ｘ線撮影やＣＴのようにＸ線を使うことなく、その代わりに強い磁石と電波を利用して、あらゆる断面の画像を得ることが出来る撮影です。造影検査では、造影剤を静脈から注射すると、腫瘍等が他の組織とは違った信号を出すので病気の診断に役立ちます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	2,169	2,144	2,280	2,236	2,598
分母	6,720	6,780	6,842	6,638	6,580
結果	32.3%	31.6%	33.3%	33.7%	39.5%

●項目名

強度変調放射線治療(IMRT)・定位照射の施行率

分子　ＩＭＲＴ（頭頸部＆前立腺）
＋定位照射件数（人数）

分母　治療件数（人数）

●解説

IMRT とは、強度変調放射線治療(Intensity Modulated Radiation Therapy)のことで、照射野内の放射線の強度を変化させて、腫瘍部分のみに放射線を集中する治療法で、合併症を低く抑えることができます。定位放射線治療とは、通常の照射よりも高い精度で位置決めを行い、腫瘍の形状に正確に一致させて多方向から集中照射することが出来る治療法です。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	59	66	62	62	72
分母	346	355	363	344	402
結果	17.1%	18.6%	17.1%	18.0%	17.9%

36 医療技術部検査室

●項目名

血液培養検査での複数セット採取率

分子　合計採取セット数－合計１セット提出数

分母　合計採取セット数

●解説

血液培養検査は、感染症（菌血症）の原因となる菌を同定するための最も重要な検査で、迅速性も求められます。

血液培養検査の複数セットの採取は原因となる菌の検出率を上げ、汚染菌（直接病気に関係しない菌）の判断を容易にするため、ガイドラインでも推奨されています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	605	620	1,698	2,407	4,170
分母	2,910	2,831	3,311	3,848	5,636
結果	20.8%	21.9%	51.3%	62.6%	74.0%

37 輸血

●項目名

赤血球濃厚液（ＲＢＣ）廃棄率

分子　廃棄赤血球濃厚液（単位）

分母　購入赤血球濃厚液（単位）

●解説

廃棄率は、血液製剤が適切に使用されているかどうかを示す指標のひとつとなります。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	46	50	14	34	24
分母	5,801	5,016	5,446	5,762	6,257
結果	0.8%	1.0%	0.3%	0.6%	0.4%

●項目名

新鮮凍結血漿(ＦＦＰ)／赤血球濃厚液(ＲＢＣ)比

分子

新鮮凍結血漿の使用量(単位)－
血漿交換療法における新鮮凍結血漿の使用量(単位)／2

分母

赤血球濃厚液の使用量(単位)

●解説

「輸血管理料Ｉ」の施設基準を満たしている病院で上記数値が０．５４未満の場合、輸血適正使用加算が算定されます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	1,757	1,016	1,560	2,905	1,830
分母	5,745	4,970	3,156	5,788	6,241
結果	0.31	0.20	0.49	0.50	0.29

●項目名

アルブミン／赤血球濃厚液（ＲＢＣ）比

分子　アルブミン製剤の使用量（単位）

分母　赤血球濃厚液の使用量（単位）

●解説

「輸血管理料Ｉ」の施設基準を満たしている病院で、上記数値が２未満の場合、輸血適正使用加算が算定されます。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	4,106	3,332	4,146	5,592	4,101
分母	5,745	4,970	3,156	5,788	6,241
結果	0.71	0.67	1.31	0.97	0.66

38 リハビリテーション室

●項目名

脳血管疾患リハビリテーション料を算定した割合

分子　脳血管疾患リハビリテーション料Ｉを算定した件数

分母　リハビリテーション料を算定した総数

●解説

リハビリを算定した患者件数の総数に占める脳血管疾患リハビリテーションＩを算定した割合です

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	29,048	30,801	28,161	24,369	26,127
分母	61,247	59,535	59,962	54,877	57,091
結果	47.4%	51.7%	47.0%	44.4%	45.8%

●項目名

運動器リハビリテーション料を算定した割合

分子 運動器リハビリテーション料Ｉを算定した件数

分母 リハビリテーション料を算定した総数

●解説

リハビリを算定した患者件数の総数に占める運動器リハビリテーションＩを算定した割合です

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	19,548	10,386	14,984	12,525	11,005
分母	61,247	59,535	59,962	54,877	57,091
結果	31.9%	17.4%	25.0%	22.8%	19.3%

●項目名

呼吸器リハビリテーション料を算定した割合

分子 呼吸器リハビリテーション料Ｉを算定した件数

分母 リハビリテーション料を算定した総数

●解説

リハビリを算定した患者件数の総数に占める呼吸器リハビリテーションＩを算定した割合です

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	7,468	7,337	7,162	6,513	5,326
分母	61,247	59,535	59,962	54,877	57,091
結果	12.2%	12.3%	11.9%	11.9%	9.3%

●項目名

心大血管リハビリテーション料を算定した割合

分子 心大血管リハビリテーション料を算定した件数

分母 リハビリテーション料を算定した総数

●解説

リハビリを算定した患者件数の総数に占める心大血管リハビリテーションを算定した割合です

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	2,803	2,909	2,504	3,666	4,427
分母	61,247	59,535	59,962	54,877	57,091
結果	4.6%	4.9%	4.2%	6.7%	7.8%

●項目名

廃用症候群リハビリテーション料を算定した割合

分子　廃用症候群リハビリテーション料を算定した件数

分母　リハビリテーション料を算定した総数

●解説

リハビリを算定した患者件数の総数に占める廃用症候群リハビリテーションを算定した割合です

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	—	—	—	—	1,108
分母	—	—	—	—	57,091
結果	—	—	—	—	1.9%

●項目名

がん患者リハビリテーション料を算定した割合

分子 がん患者リハビリテーション料を算定した件数

分母 リハビリテーション料を算定した総数

●解説

リハビリを算定した患者件数の総数に占めるがん患者リハビリテーション料を算定した割合です

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	―	5,104	6,718	7,804	9,098
分母	―	59,535	59,962	54,877	57,091
結果	―	8.6%	11.2%	14.2%	15.9%

39 栄養部

●項目名

栄養管理計画書作成率

分子　栄養管理計画書作成数

分母　入院患者数

●解説

栄養管理計画書とは、特別な栄養管理が必要と医学的に判断される患者について、栄養状態の評価を行い、当該患者ごとの栄養管理計画を記載したものです。

栄養管理計画書の作成は、入院基本料算定基準に係る栄養管理体制の基準として定められています。

特別な栄養管理の必要性については、入院診療計画書に記載することとされています。

当院では、入院診療計画書で、特別な栄養管理の必要性が無いと判断された患者を除く全入院患者について、栄養管理計画書を作成しています。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	10,971	11,359	12,203	12,570	12,748
分母	13,908	13,721	14,125	14,635	15,025
結果	78.9%	82.8%	86.4%	85.9%	84.8%

●項目名

栄養食事指導実施率（入院）

分子	栄養食事指導実施件数（入院）
分母	特別食加算件数

●解説

食事療法は治療の一環であり、疾病治療の直接手段として、あるいは栄養状態の改善による疾病の進展・再発・合併症の予防など予後の改善や、入院期間の短縮に大きな役割を担っています。

そのため、栄養食事指導は、患者が食事療法を理解し、継続して実践するための知識とスキルを習得する上で非常に重要です。

栄養食事指導は医師の指示に基づき実施することとされており、栄養食事指導料の算定は、特別食を医師が必要と認めた患者に対して指導を実施した場合とされています。

※特別食加算件数は、入院患者に提供する食事のうち、特別食加算を算定した食事の割合の年平均を、当該年度の入院患者数に乗じて算出しました。

●結果

	２４年度	２５年度	２６年度	２７年度	２８年度
分子	949	1,015	1,038	1,056	949
分母	4,270	4,061	3,983	4,186	4,270
結果	22.2%	25.0%	26.1%	25.2%	22.2%